

子ども・若者の課題を地域全体で受け止めるために —子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業の取り組みから—

子どもの貧困が社会的な課題となる中、子どもたちが生活する地域で子どもを支える活動が大切であることが実践から分かってきています。県内には、貧困の子どももそうでない子どもも対象とした「子ども・若者の居場所」が多くあり、子どもたちの育ちを支えています。

本会で実施している「子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業」から見えてきた子ども・若者支援の現状と今後の本会の取り組みについて報告します。



本事業が始まったきっかけ

本会では、平成28年度から4カ年にわたる「活動推進計画」において「子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業」(以下、協働事業)を新たに立ち上げました。

これは、本会の政策提言活動等を通して明らかになった課題である「子どもの貧困の連鎖の防止」「生活福祉資金『教育支援資金貸付』の相談・申請の急増」「社会的養護のもとで育った子どもの自立が困難な現状」の3つを主な背景としています。

そこで、協働事業では「子ども・若者の自立と育ちを支えること」を地域の福祉課題として捉え、特定の状態にある子どもに限らず、地域全体の子ども・若者を支えること、また、子どもの課題から地域全体つながり・支え合いの輪を広げていくことを目指しています。実施にあたっては、(N)よこはま地域福祉研究センター、(福)神奈川県共同募金会と三者協働で取り組んでいます。

同時に、子どもが安心して過ごす居場所づくりの普及・推進を目指す県の「子ども・青少年の居場所づくり推進事業」を受託し、両方の事業を連動させながら実施してきました。四者で協働するため、事業の方向性も含め打合せで確認しながら行っています。

見えてきた居場所のいま

「寂しさが見え隠れする子。みんなと一緒に、学習会+ごはん」は、子どもの心の受け皿になっていると思う。「制度では対応できないことで居場所を受け止めることで、子どもの生活が変わってくる」。事例集等の発行に向けた取材の中で聞かれた言葉です。

居場所の様子や支援者の声から、子ども・若者の居場所における「コミュニケーション」の重要性が見えてきました。支援者と子ども、子ども同士、支援者同士、それぞれ信頼関係が育まれることよって実現します。また、課題が出てきた時、コミュニケーションを基本に、支援者

〈協働事業の目標〉

- ①「子ども・若者の育ちと自立を支える取組みの必要性」と「支援する大人に求められる視点」を学識者の言葉や統計データ、実践者の取り組みから発信すること
- ②実践者への取材を通じ、新たな活動と課題を掘り起こすこと
- ③実践者・取組みのゆるやかなネットワークを形成すること

〈実施している内容〉

- 課題や取組みを共有する冊子「子ども・若者の居場所づくりガイド」「子ども・若者の居場所づくり事例集」の発行、「子ども・若者の居場所づくりフォーラム」開催を毎年実施
- 2年間で23カ所の居場所を実際に訪れ、ガイドや事例集を作成
- 同じ年に作成のガイドと事例集は、共通のテーマを設定し作成

- ガイド：県の子どもの若者支援方針、子ども・若者の現状についてデータ紹介、居場所実践者からの寄稿など(※)
- 事例集：居場所実践者へのインタビューで活動をありのままに紹介。写真を多く使い、活動の様子が伝わるようにするとともに、「活動の自己評価」や「活動のプロセス」を図で視覚的に表現していることも特徴
- フォーラム：基調講演や事例報告、ワークショップで構成。ガイド等の作成で把握された課題や、先駆的な活動について、支援者同士の情報交換やつながりの場として開催(※)

※県委託事業

ガイドと事例集は、本会ホームページより閲覧できます
URL <http://www.knsyk.jp/s/shiru/seisyounen.html>

とすることができること、やるべきことを話し合い、活動を進めていることも分かりました。このため、今年度作成の事例集は「コミュニケーション編」として、支援者と子どもや、支援者同士のコミュニケーションにもスポットをあてて作成しています。

そして、次のテーマは「ネットワーク」。協働事業の中で、居場所がもつネットワークには、次の3つがあり、これを生み出し活かしていることが見えてきました。

- 子ども・若者等、個別の対象への支援を行うため
- 活動団体の継続発展のため
- 活動団体の地域力を高めるため

11月の第3回フォーラムも、「ネットワーク」をテーマに開催。居場所

にとつてのネットワークの必要性を
確認するとともに、構築・活用方法
について情報を共有することを目的
として実施しました。

今月発行するガイドも、「ネット
ワーク」をテーマとしています。3
つのネットワークが居場所にあるこ
とで、子ども・若者へのより豊かな
個別支援につながり、その個別支援
がさらに地域づくりへつながって
いく循環を伝えていく予定です。

本会会員の取り組み

では、実際に子どもたちが暮らす
地域ではどのような取り組みがある
のか、市町村域での取り組みとして
座間市社会福祉協議会、より小さな
子どもの生活圏域での取り組みとし
て(福東の会(4面))をご紹介します。

■座間市社会福祉協議会

座間市社協では、地域福祉活動計
画において「だれもが安心できる居
場所づくり」として、地域サロンと
子ども食堂が各地区に設置されるこ
とを目標に掲げています。

きっかけは、平成27年度の地域福
祉フォーラムで貧困をテーマとした
ことでした。分科会「子ども食堂が
支える子どもの未来」では参加者も
多く、活発な情報交換や連絡先の交
換などが行われました。そして、次
の年には「座間子ども食堂ミーティン



子育てサポーター育成事業の
講座当日の様子

つながっています。

しかし、多くの課題があり、子ど
も食堂の立ち上げには至りません
でした。そこで、まず子どもの育ちの
課題などを地域の人たちに知って
もらうことから始めようと、「子育てサ
ポーター育成事業」に着手しました。

■子育てサポーター育成事業

初級編、中級編、上級編の講座を
平成29年度より順次開始し、交流会

グ」が開催
され、子ど
も食堂の実
践者や協力
したい人な
どが集い、
情報交換を
行う場へと

も毎年実施しています。交流会で子
どもの育ちを応援したい人同士をつ
なげ、講座で子ども食堂などの取り
組みを紹介、支援者のすそ野を広げ
つつ、活動上の課題解決のヒントを
得る仕組みとしています。これによ
り居場所の立ち上げや既存の活動支
援を行っているのです。

毎年講座に参加する人も多く、参
加者からは「今の子どもでできることが何
かないだろうか」などの声があがっ
ています。また、子どもの登下校中
の見守りや障害児への関わりがある
人など、子どもとの関わりを持つ人
が多いことも把握されました。

そのほか「子どもに関わりたくい
という漠然とした思いを形にするサ
ポートがほしい」「学校との連携にお
いてPTAや学校との話し合いの場
がほしい」という要望も寄せられて
います。

お話を伺った同社協ボランティア
センターの山角直史さんは「地域の
方が子どもとの関わりを多く持つ
ていることが把握できたのも、子育て
サポーター育成事業の結果と考えて
います。また、まず子どもの現状を
多くの人に知ってもらうことが必要
とより強く感じます。社協には、ボ
ランティア希望で登録している方も
多く、そういう方々とも今後は連携
し実践していきたい」と話します。



サポーター育成事
業を担当している
山角さん

座間市社
協の取り組
みにより、
子どもの育
ちの課題へ
の理解が進み、新しい活動が立ち上
がるのが期待されます。

本会の今後の取り組み

現在、子ども食堂の数は3000
を超えと言われ、この3年ほどの
間に急増しました。子ども食堂だけ
でなく、地域の特徴や立ち上げた団
体の思いにより、多様な居場所が存
在していることも把握されています。

経済的な貧困だけでなく、関係性
の貧困により、子ども・若者の育ち
や自立が厳しい状況にある中、子ど
も食堂や学習支援などの居場所は、
子どもたちの自己肯定感を育み、人
生の選択肢を増やす可能性があると
言われています。また、子どもが自
分らしく安心して過ごせる居場所
は、支援者や地域の人にとっても価
値ある場所であることが分かってき
ました。

子どもの課題から地域全体の支え
合いを目指し、今後も本会として情
報提供や支援者同士が出会う機会を
生み、ゆるやかなネットワークをつ
くっていきたくと考えています。

(企画調整・情報提供担当)

社会福祉法人の取り組み

～(福)東の会特別養護老人ホームみたけの 「みたけ子ども食堂」

2月17日(日)は、スパゲッティミートソースにサラダ、デザートはフルーツポンチにチョコフォンデュ。前回の子ども食堂で子どもたちからリクエストされたメニューです。もうすぐ桃の節句なので、レクリエーションではみなでおひなさまの工作をしました。



子ども食堂の様子(左)と
みんなで作ったおひなさま(上)

(福)東の会では、社会福祉法人として地域貢献活動を模索してきました。「この地域は大きな団地が周辺に複数あり、単身や夫婦のみの高齢世帯も多くなっています。また施設は子どもにとっても安全な場所。何かあったら飛び込んで来てもらいたい。学校や塾だけではなく、子どもらしくいられる場所を作りたい」と栄養課管理者である駒崎万寿子さん。地域の高齢者も子どもも安心して過ごし、食事のできる場所「みたけ子ども食堂」を(福)東の会で運営している特別養護老人ホームみたけで平成28年8月から始めました。

毎月1回開催し、参加は子どもと高齢者がほぼ半数。回を重ねる中で、小学生の女の子が「おばあちゃんと親友なの」といつも隣に座ったり、高齢の男性と小学生の男の子と一緒に工作をする様子が自然と見られるようになりました。いちごが大好きな3歳の女の子に高齢の女性がいちごを渡し、それを母親が笑顔で見ている姿もあります。施設の中は広く、子どもが動

き回っても安全です。

取り組みを始めて半年後のアンケートでは、「仕事が楽しい!」と子どもたちに大人気。高齢の参加者からは「食事だけでなく、子どもとの交流が何よりも楽しみ」という声が多くありました。「プログラムを縮小しようかと思いましたが、そのまま継続することにしました」と駒崎さんは笑顔で話します。

時には、高齢の参加者から生活への不安が寄せられることもあり、地域包括支援センターの職員も手伝いながら様子を見に来るなど、関係機関の関わりも出てきています。アレルギーのある子どもの親からは「管理栄養士がいる食堂だから安心して参加させられる」との声もありました。

衛生的で安全なスペースや設備がそろっていること、「地域の人から慈しまれる体験は、子どもの育ちに大事なこと」と話す駒崎さんのような、地域の子もへまなごしを向ける専門職がいることが社会福祉法人の強みと言えます。これからも「みたけ子ども食堂」の子どもを育ちを支える取り組みに期待しています。



みたけ子ども食堂を運営している栄養課スタッフのみなさん(中央が駒崎さん)



(福)東の会 特別養護老人ホームみたけ

〒252-0254 相模原市中央区下九沢980

TEL 042-700-0277 FAX 042-700-0288

一般家庭から大型ビルまで最新の
エレクトロ技術により皆様の安心
と安全を提供致します。防犯カメラ
や新型【AED】も取扱っております。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 **岡本 誠 一 郎**

本 社 〒221-0045 横浜市中区神奈川2-8-8 第一川島ビル
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1528

一般社団法人

神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理 事 伊藤 正孝 ☎045-412-2110

同 辻村 祥造 ☎045-311-5162

同 西迫 一郎 ☎046-221-1328

同 林 雄一郎 ☎0466-26-3351

代表理事 八木 時雄 ☎042-773-9266

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI きがん印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1598
<http://www.kki.co.jp/>